

## 大会開催に関わる新型コロナウイルス感染症対策について

稲城市サッカー連盟少年部

基本的には 11 ブロック開催の大会要項に準ずることとします。以下に稲城市サッカー連盟少年部版として整理したので順守願います。

1. 以下に記する感染症対応特別ルールが施行される期間は「大会要項」より感染症対応特別ルールが優先される。
2. 試合会場(グラウンド及びベンチ)と管理区域(グラウンド周辺)を設定し、その中には応援・観戦者の入場は不可とする。
3. 大会は無観客試合とし、試合会場に入れるのは試合に出場する選手と、2名から最大5名のスタッフのみとする。ベンチ入り指導者は少年部発行の「指導者証」を常時首掛け掲示していなければならない。
4. 熱中症対策や荷物の管理等で別途保護者を最大3名まで協力スタッフとして管理区域(グラウンド内は不可)への入場を認める。その3名は少年部発行の「スタッフ証」を常時首掛け掲示していなければならない。
5. 協力スタッフの役割はチームや選手の保護であり、応援や撮影ではない事を認識しなければならない。
6. 無観客＝観戦者無しなので、先乗りしての試合観戦や試合後の居残り観戦は不可とする。各チームはアップの時間に合せて会場入りし、試合後は(運営や審判の割当てスタッフ以外)速やかに試合会場・管理区域から全員退去すること。
7. 試合会場に入場の全選手及びベンチ入りスタッフと、管理区域へ入場できる協力スタッフ(大会敷地内に留まる全ての者)は、少年部指定の『参加者名簿』を自チームの最初の試合の30分前までに大会本部に提出する。
8. 『健康チェックシート』には個人情報に保護者の署名と、試合の2週間前から試合当日までの起床時の体温と体調と同居人の体調の様子を記載しなければならない。
9. チームは体温計(接触・非接触問わず)を持参し、全選手とベンチ入り及び協力スタッフが会場入りした際に自チームにて検温し、その数値を『参加者名簿』の所定欄に記載しなければならない。体温計を持参しなかったチームは、本部にて非接触型体温計の借用もしくは本部にて検温することが出来る。(本部には少年部で用意した非接触型体温計が用意されている。使用后・返却時には消毒する)
10. 当日の体温が37.5℃以上の者は選手・スタッフとも出場出来ず速やかに隔離措置されなければならない。非接触式体温(温度)計で37.0℃以上の結果が出た者は、正規の接触式体温計で再検温し、接触式体温計の結果を優先する。健康チェックシートで過去2週間以内に37.5℃以上の高熱であった者も会場入りさせてはならない。医療機関にて「新

型コロナウイルス感染者ではない」と診断されたものを除く。

- 1 1. 『健康チェックシート』は各チームで管理いただくが、個人情報に記載されているので、各チームが責任をもって保管しなければならない。また後日チーム内で感染やその疑いのある者が発生した場合、少年部長は該当するチームが保管している『健康チェックシート』の 1 部もしくは全部の提出を求める。この場合の個人情報は少年部もしくは提出先の東京都少年連盟が責任をもって保護する。
- 1 2. 会場入りの際、全ての関係者はマスク（もしくはフェイスシールド）着用を必須とする。ベンチでの選手やスタッフもマスク等着用必須とし、選手も審判員も用具チェックの際はマスク等を着用する（競技のフィールドに立つまで原則着用）。本部役員や運営担当及びフィールド外スタッフも会場にいる全てが対象で、マスク類を原則着用とする。石鹸や消毒液はチームで持参し、会場入り後は全員が手洗い・消毒を行い、常に他者との距離を保つことを心掛ける。
- 1 3. 試合では、開始や終了の挨拶は相手チームとの距離を 2 m 以上取って整列(左右の間は 1 m 以上) し、主審の笛の合図で一例のみ行い、声掛け・握手・ハグ・ハイタッチは禁止する。同様に円陣も組んではならない。また、ベンチ指導者は大声を出しての指示や選手に触れることを極力控える。ベンチ指導者同士の挨拶も無しとする。
- 1 4. 熱中症対策は従来通り WBGT 計の指数を目安に対応する。新型コロナウイルス感染症対応と相反する場面が出た場合は、より生命への危険度の高い熱中症対策を優先とする。

例) ベンチでは密を避けるよりテントの日陰に入ることが優先。マスク着用のせいで体調不良を起こしそうな選手やスタッフは競技場から離れて涼しい場所で回復に専念する。マスク(又はフェイスシールド)着用は必須だが、アップや試合の際にはマスク等を外して熱中症に備える。審判も競技のフィールドに入ったらマスク等を外す。

2020/9/3 制定

以上